



スギ・ヒノキ人工林に進入したモウソウチクの駆除方法 (実証試験に基づくモウソウチクの駆除指針)



はじめに

峡南地域を中心に、放置竹林から進入したタケにより、造林されたスギ、ヒノキの成長阻害による枯損・衰退被害が広く認められ、大きな問題となっています。

そこで、低コストで効果的な駆除方法を確立し、タケ駆除対策の推進に資することを目的として、3 年間に渡り、駆除に関する実証試験を実施し、その結果に基づき、低コストで効果的なタケ駆除方法を明らかにしました。

実証試験の内容

駆除対象をモウソウチクとし、伐採・除去による方法と農薬取締法に基づく登録農薬の処理による駆除について、以下のとおりの実証試験を行いました。

伐採・除去による駆除試験

根元から伐採する方法(以後、根元伐採)と1mの高さで伐採する方法(以後、1mでの伐採)の2とおりを試みました。各伐採方法について伐採・除去の工程調査(直径10cmのタケ1本を伐採・除去するのに要した時間)を行い、駆除後3年のタケノコ発生数を経年調査し、発生したタケノコの駆除作業を実施しました。

登録薬剤処理による駆除試験

根元から約60cmの高さで節の下側にドリルで穴を開け、登録農薬であるラウンドアップマックスロードの原液および2倍希釈液10mlを注入処理しました。ここで、原液、2倍希釈液のいずれも供試竹の本数は5本ずつとしました。薬剤処理後、約1ヶ月の間隔で枯損状況を追跡調査しました。

伐採・除去試験



根元で伐採



1mの高さで伐採

登録薬剤処理試



- ◎ドリルで穴あけ
- ◎登録薬剤注入(10ml)
- ＊原液
- ＊2倍希釈液



実証試験の結果に基づくモウソウチクの駆除指針

伐採・除去による駆除指針

- ①伐採・除去の工程は、1mでの伐採が勝るが大差はなく、タケノコの発生数は、根元伐採が早く発生しなくなりますが、その差は、1年で大差はないと考えられることから、根元伐採と1mでの伐採は、効果と効率において大きな差はないと考えられました。

②タケを伐採・除去して3～4年間、発生したタケノコを駆除するとタケノコが発生しなくなると推定されたことから、**3～4年間にわたりタケの伐採・除去を継続して行う**ことにより、の更新を抑制できることが明らかになりました。

表-1 伐倒・除去による駆除処理の追跡調査結果

伐採位置	タケの 成立本数	平均直径 (cm)	伐採工程 (分/本)	タケノコの発生数		
				1年後	2年後	3年後
根元	19	9.4	2.1	13	7	3
1mの高さ	23	10.1	1.8	10	8	4

(註1) タケの成立本数は5m×5mの固定試験区に成立していた数

(註2) タケノコの発生数は5m×5mの固定試験区に発生していた数

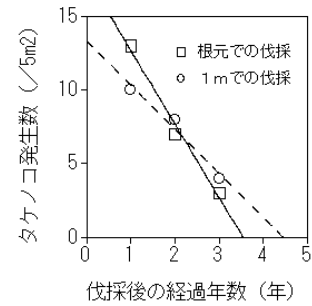


図-1 タケノコ発生量の経年変化

登録薬剤処理による駆除指針

- ① 枯損までの期間差はありますが、薬剤を処理することによって、タケを確実に駆除できることが明らかになりました。
- ② 2倍希釈液により薬剤を処理しても、原液処理と比べて、遜色ない駆除効果があることが明らかになりました。
- ③ 枯損に要する期間については、薬剤処理した季節により異なっていました。
- ④ 春季および秋季に薬剤処理を行った場合、ほとんどのタケが枯損するのに、300～350日かかりました。
- ⑤ 初夏～成夏および冬季に薬剤処理を行った場合、ほとんどのタケが枯損するのに、100～250日かかることが明らかになりました。
- ⑥ ①～⑤から、経済的、効果的なタケ駆除を行う薬剤処理方法として、**春季と秋季を除く、初夏～盛夏および冬季に2倍希釈液を10ml注入する**ことが考えられました。

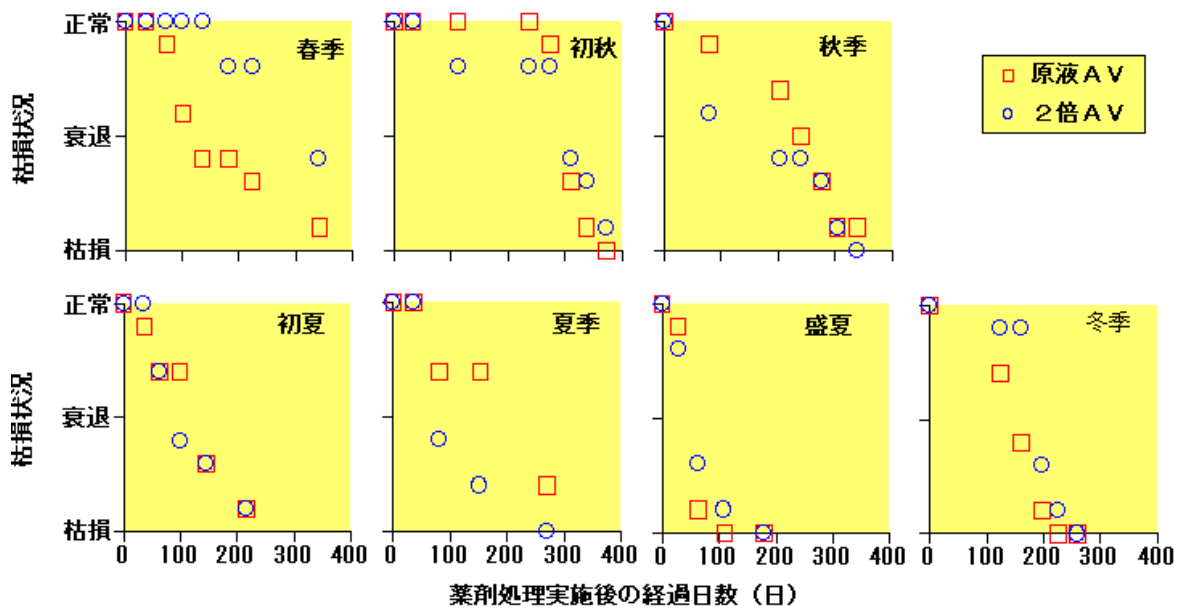


図-2 薬剤処理実施後の経過日数とモウソウチク枯損状況

<p>作成：山梨県森林総合研究所 森林研究部 育林・育種科 田中 格</p>	<p>連絡先 TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002 メールアドレス sinsouken@pref.yamanashi.lg.jp</p>
--	---